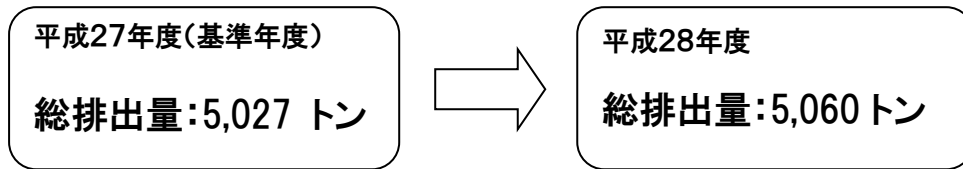


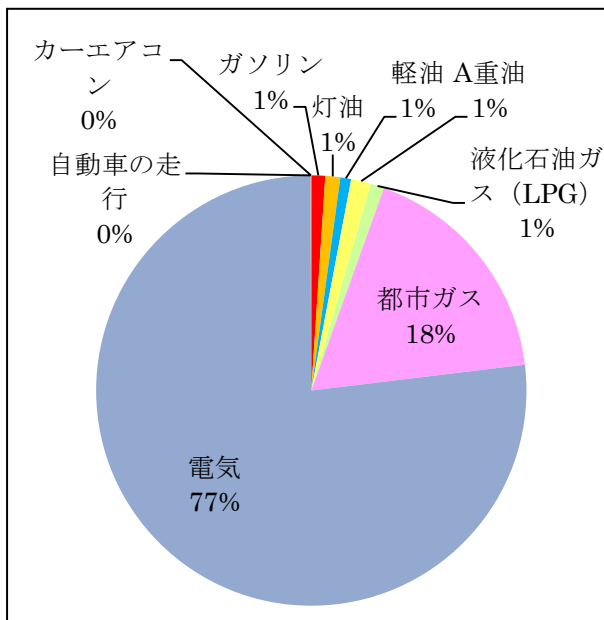
平成28年度温室効果ガス排出量まとめ

1. 温室効果ガス排出量について

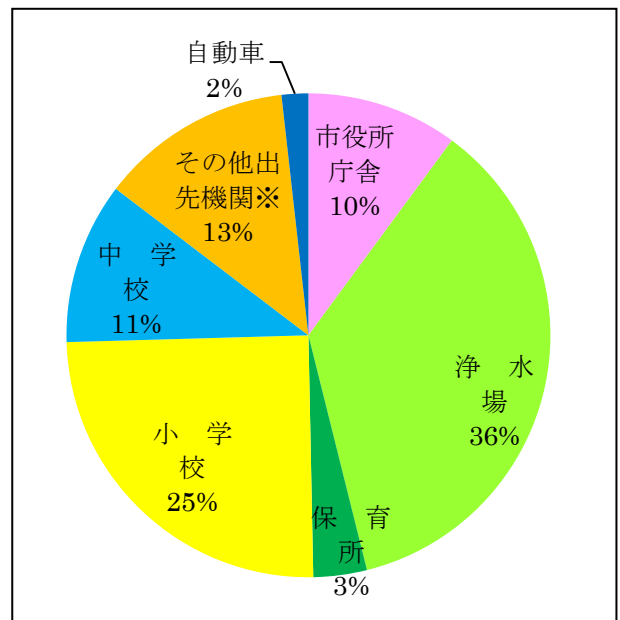


※平成27年度比 0.7%増

発生源別二酸化炭素排出割合



施設別二酸化炭素排出割合



2. 森林整備によるCO₂吸収量

🌲 森林整備面積 : 6.74ha

🌲 CO₂吸収量 : 68.8 t

H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28

(45.7 + 59.2 + 157.0 + 108.2 + 65.7 + 52.0 + 31.9 + 30.5) ÷ 8年 = 68.8t

H27年度比
0.8%増加

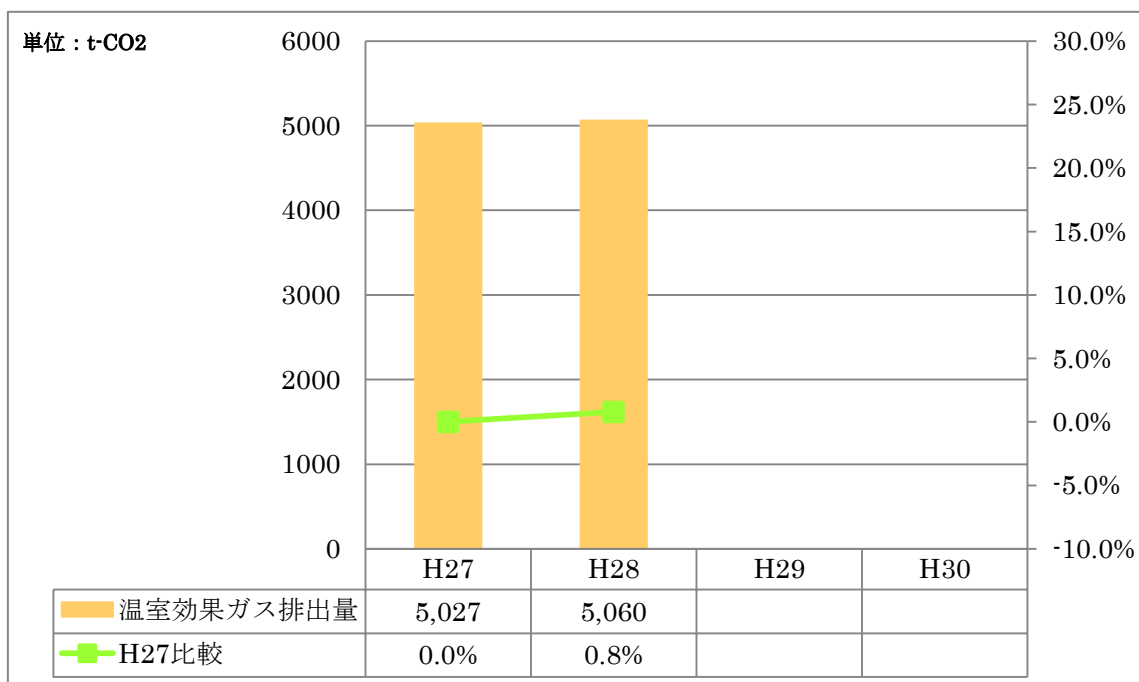
全体(総排出量:5,060t-CO₂吸収量:69t) = 4,991t

※平成27年度総排出量 4,953t

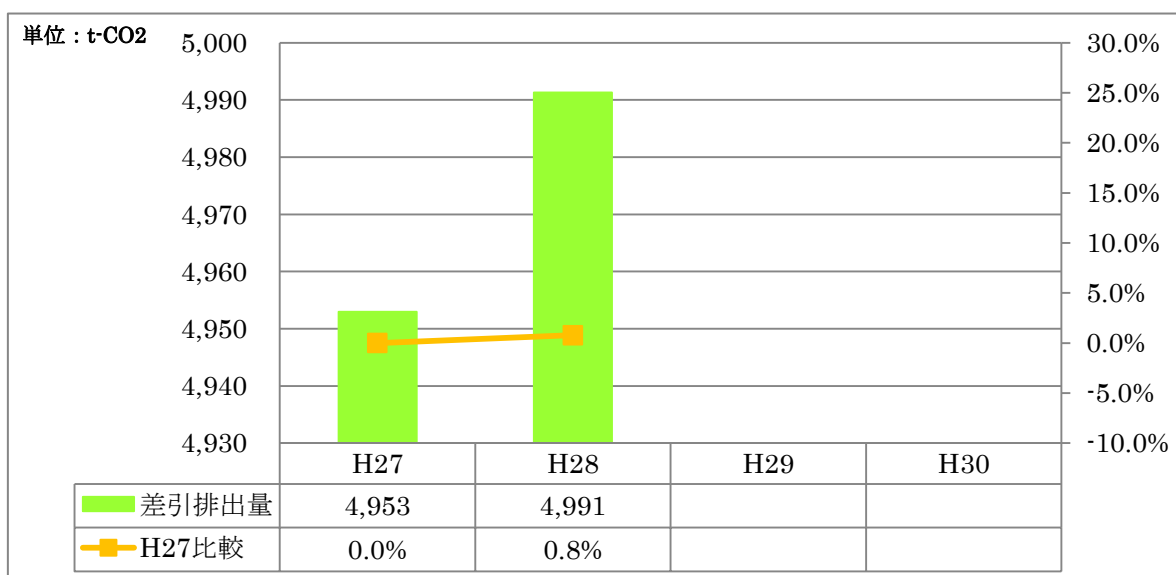


《推移》

① 【温室効果ガス排出量推移】



② 【温室効果ガス排出量（森林吸収量含む）推移】

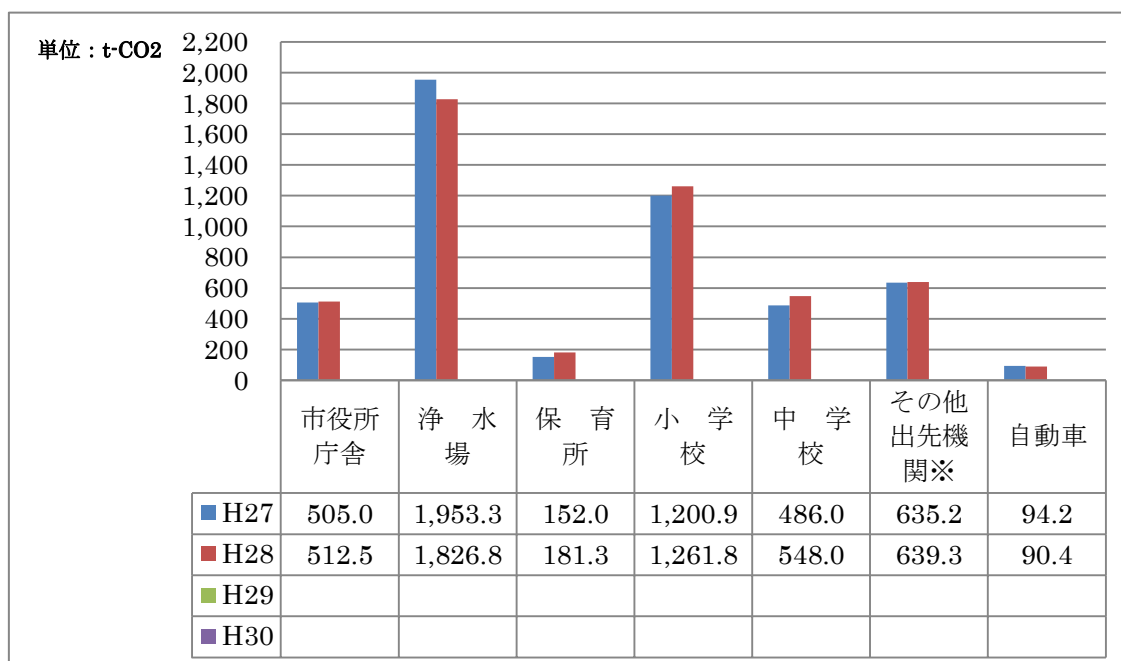


①のグラフは、基準年である平成27年度から計画の対象年度である平成30年度までの推移を比較したグラフです。②のグラフは、①の排出量から森林吸収量を差し引いたグラフです。

平成 28 年度に対象施設から排出された温室効果ガス排出量は 5,060 t であり、長岡京市役所地球温暖化防止実行計画の基準年度である平成 27 年度の温室効果ガス排出量 5,027 t と比較すると 0.7% の増加となり、また森林吸収量を含めた温室効果ガス排出量の比較においても森林吸収量の減少に伴い 0.8% の増加となりました。

温室効果ガス排出量が増加した背景としては、夏の猛暑及び冬の厳寒などにより空調設備の利用が多く、電気使用量及び都市ガス使用量が増加したことが挙げられます。一方、電気の温室効果ガス排出量を見てみると平成 27 年度まで上がっていた電気の排出係数は平成 28 年度には 0.523 から 0.496 へと 5.1% 下がりました。そのため全体の約 8 割を占める電気使用量が昨年度と比べ 1.9% 増加したものの、温室効果ガス排出量に換算すると昨年度比 3.7% の削減となりました。本市では多くの空調施設でガスヒューポンを導入しているため、電気の排出係数が下がったものの都市ガスの使用量の増加したことにより市役所全体として温室効果ガス排出量が増加しました。

③ 【施設別の温室効果ガス排出量推移】



※中央公民館、図書館、北開田会館、北開田児童館、老人福祉センター、保健センター、多世代交流ふれあいセンター

③のグラフは、基準年である平成 27 年度から計画の対象年度である平成 30 年度までの施設別温室効果ガス排出量の推移を表したグラフです。

浄水場と自動車を除いたすべての施設で温室効果ガス排出量が増加しています。浄水場については北ポンプ場が施設更新され、平成 28 年 5 月に本稼働しました。北ポンプ場は設備の省エネ化が図られたこともあり、浄水場の施設の合計電気使用量は平成 27 年度と比べ削減されています。

一方で他の施設については、猛暑・厳冬の影響を受け、空調設備の稼働期間、時間が長かったことから温室効果ガス排出量が増加したと考えられます。そのなかで中央公民館では空調工事期間中（平成 29 年 1 月～3 月）ガスファンヒーターの燃料として灯油を使用したこと、北開田児童館では来館者用の開放スペースが増えたこと、多世代交流ふれあいセンターでは開館日が増えたこと、小中学校では空調設備の台数が増えたことなどで温室効果ガス排出量が増加したと考えられます。